

科目名	失語症 I					授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期		1年 後期
【授業の目的・ねらい】 失語症について医学的観点からその基礎となる領域について理解できる。										
【実務者経験】 幸生病院、ドレミリハビリテーション、機能訓練教室等にて、言語聴覚士として失語症治療に従事。										
【授業全体の内容の概要】 失語症について基礎知識と症状、タイプ分類などが理解できる。失語症の方との関わり方を実践的に身につける。										
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 失語症についての基礎的な知識を習得できる。言語症状の把握や有効なコミュニケーション手段を考え、失語症者の心理的問題を浮き彫りにすることができる。心理的なアプローチに加え、言語訓練に必要な評価や高次脳機能障害、家族関係などの問題も検討することができる。										
回数	講義内容								準備物(教材)	
1	失語症の定義、脳のあらまし、精神の働きと脳の領域を理解できる。									
2	失語症の言語症状、失語症の診断、失語症のタイプ分類を理解できる。									
3	ブローカ失語・ウェルニッケ・伝導失語・失名辞失語について基本概念・症状を理解できる。									
4	全失語、超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語、超皮質性混合性失語について基本概念・症状を理解できる。									
5	特殊な失語（交叉性失語・原発性進行性失語・小児失語など）について基本概念・症状を理解できる。									
6	近縁症状、随伴しやすい障害、専門用語を確認し、理解できる。									
7	失語症の評価・診断の原則、情報収集、鑑別診断について理解できる。									
8	言語治療の流れ リハビリの原則について理解できる。									
9	失語症者に対する接し方、訓練の実際について理解できる。									
10	VTRを見て言語症状の把握、失語のタイプ分類をする（症例1）ことができる。									
11	失語に関係のある検査についての説明ができる。									
12	言語治療の原則 各期の言語治療（急性期・回復期・維持期）を理解できる。									
13	言語治療の理論と技法（刺激法・機能再編成法・遮断除去法など）が理解できる。									
14	言語治療計画の立て方（目標の設定・治療方針・教材作成など）が理解できる。									
15	症例Ⅱの紹介（VTR利用）観察の記録について理解できる。									
定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 失語症学』医学書院										
【準備学習・時間外学習】 予習としてテキストを読んでおくことや講義後の復習、検査の練習や訓練計画、訓練材料の準備が必要です。										
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 定期試験を70点、小テストを10点、課題の評価を20点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。										